

[個人]

おおやなぎ たけひこ
大柳 雄彦

(昭和7年1月2日生 78歳)

住 所 宮城県仙台市泉区高森六丁目27番地の7

<功績の概要>

同氏は、宮城県林業技術吏員として森林の整備・保全に尽力するとともに、森林と人との関わりを独自に探究し、一般県民に親しまれる森林・林業を目指して「森林文化」の普及をテーマに、県の緑化推進運動を先導している。

宮城県を退職後、平成9年には現会社(株式会社宮城環境保全研究所)の代表に乞われ、以降、動植物の生態調査、植物・生物の分類同定、森林調査及び樹木の診断・治療などに広く関わり、県内はもとより東北の各自治体の指導、相談役を勤めるなど、地域の森林保全や環境緑化の推進に当たっている。

また、植物全般に造詣が深いこともあり、東北地方の森林・自然環境に係る審議会等の委員を数多く務めるなど、森林整備の必要性や循環型社会の構築を訴え、日本の森林環境の将来のため、鋭意取り組んでいる。

これらの功績を認められ、平成14年に緑化功労者・国土緑化推進機構会長賞を受賞しているが、その後も宮城県が認定制度として実施する「宮城県森林インストラクター」養成講座、地域で行なわれる自然観察会、中高年を対象にした「みやぎシニアカレッジアカデミー校」等の講師・案内役、児童・生徒の活動の場である「みどりの少年団」の育成・指導、その他多くの市民活動やボランティア団体など、極めて幅広い分野で自然環境に関する知識・技術の指導普及に尽力するなど、県土の緑化推進に果たす同氏の功績は、極めて顕著である。

[個人]

ほし の つとむ
星 野 努

(昭和10年1月14日生 75歳)

住 所 愛知県岡崎市毛呂町字前田26番地

<功績の概要>

同氏は、早くから森林整備の技術確立を目指し、指導・研究を行ってきた。適正に森林を整備することで、林業経営の向上と人工林の機能を多面的に高めることに貢献している。

昭和51年に市内(旧額田町内)の林家で構成される林業研究グループ「額田町林業クラブ」を設立し、初代会長に就任、以来育林技術の普及と実践に尽力してきた。

地域において森林整備の模範を示すとともに、指導林家としても、多くの林業技術研修会の講師を務め、県内全域の育林技術の向上に貢献してきた。

昭和62年には、優良柱材生産のための育林技術体系を提唱し、全国の林業関係者に多大な影響を与えた。

地域の山林所有者にも森林整備を呼びかけ、林業の振興とともに、森林の育成に努め緑の保続に貢献している。

小中学生に森林・林業体験学習の指導を行い、生徒が森林に興味を持ち、将来にわたり緑化へ取り組むよう意識の向上に努めている。

また、都市部との交流などにも力を入れ、森林整備に興味を持つ人を積極的に受け入れ、緑化の裾野を広げている。

[個人]

さかの まさよし
坂野 正義

(昭和10年6月14日生 74歳)

住 所 北海道檜山郡江差町橋本町77-1

<功績の概要>

同氏は、檜山の地名由来となっているヒノキアスナロ(ヒバ)の資源が減少の一途にあることに危機感を抱き、昭和55年から自己所有林で試行錯誤を繰り返し、檜山地域に適応した挿し木育苗技術を確立、地域における植樹活動への苗木提供や技術指導を行うなど、ヒバ文化の復興と伝承に尽力するとともに、この技術を地元の技術指針として広め、ヒバの植栽面積が10年間で7倍に増加するなど、ヒバ資源の回復に多大な貢献を果たした。

また、こうした活動は、ヒバ資源回復とともに自然豊かな森・川・海を育てていくことを目的に進めている「檜山の森づくり植樹祭」や、歴史的建造物の維持・修復に必要な良質なヒバ材を供給できる山づくりを目指す「檜山古事の森」の取組につながり、同氏は地域のリーダー的存在として活躍している。

さらに、江差の桐文化復興に向けた活動に生産・技術者として参画するほか、異業種の仲間とともに北限の桐の復興を目指し「北の桐を創る会」を発足、全国的にもほとんど例のなかった桐の間伐材を活用した床材を開発するなど、新たな桐文化の創造にも力を注いでいる。

このほか、北海道知事が認定している指導林家や檜山南部森林組合理事など、数多くの立場で北海道の森林・林業を牽引、地元では「ヒバの坂野」と知られ親しまれ、地域に欠かすことのできない存在となっている。

[団 体]

きたみしあいのないちようちようないかいはれんごうかい

北見市相内町町内会連合会

所 在 地 北海道北見市相内町101-5

代 表 者 会長 吉倉 輝久

<功績の概要>

同団体は、北見市相内地区にある町内会が連携し組織された団体で、昭和44年に設立、昭和47年から国道区域の清掃・美化を定期的を実施してきている。

年間の活動は、春先の「冬あか一掃運動」にはじまり、花壇(植樹帯)の清掃・花植え・管理、歩道清掃など道路の美化運動を定期的に行っている。特に、花壇(植樹帯)の整備については、長年の活動が認められ、平成12年度に道路をまもる月間の建設大臣表彰を受賞している。

現在、平成20年度よりボランティア・サポート・プログラム団体として協定を結び引き続き活動を行っている。

[団 体]

じっこういんかい
みどりのふるさとづくり実行委員会

所在地 千葉県野田市鶴奉7-1 野田市役所みどりの課内

代表者 茂木 康男

＜功績の概要＞

同団体は、平成9年8月「12万本植樹事業実行委員会」として発足し、平成10年2月に「みどりのふるさとづくり実行委員会」としての組織となった。

野田市の基本テーマである「みどりのふるさと野田」を果たすために、市民が自ら緑を創造し、良好な環境が守れるよう市民参加による緑化活動の推進と、緑化意識の高揚を野田市民全体で図ることを目指している。

＜主な活動＞

- 公共施設等への拠点植樹活動
市内の公共施設等へ、一般参加を呼びかけながら植樹活動を行っている。
- イベント「みどりのふるさとづくりフェスタ」主催
当会手作りのイベントを開催し、緑化推進の活動を行っている。
- ミニ門松の作成講習会
当会員によるミニ門松作成講習会を行い、市内の老人ホームへ寄付している。
- 苗木等の無料配布と、花と緑の相談室を設置
市内で行われているイベントに参加し、苗木等の無料配布や、相談室を設けて緑化推進の活動を行っている。

[団 体]

さくらもり
くにたち桜守

所 在 地 東京都国立市中2-14-21 川島一矩方

代 表 者 大谷 和彦

<功績の概要>

同団体は、平成12年4月から活動を始め、現在登録している会員は、約200名である。

国立市のシンボルでもある大学通りにおいて、衰弱したサクラの樹勢回復作業を行っている。

他に例を見ない特徴としては、市内六校の小学生が授業の一環として、くにたち桜守の活動に関わっていることがあげられる。小学生たちが自分の手でサクラの植樹などを行うことにより、サクラを通して、地域への愛着や環境への関心を深めていく一環としている。

毎年、サクラにまつわる各種の市民向け講座を開催、また、平成20年からは国営昭和記念公園において「桜コンシェルジェ展」というイベントを開催し、大勢の参加者を集めている。

また、同団体の活動は、テレビ、新聞、雑誌などの各種メディアや学校教科書などに取り上げられ、様々な分野で地道な活動が紹介されている。

[団 体]

ひ の し ぜ ん ま も か い
日 野 の 自 然 を 守 る 会

所 在 地 東京都日野市東豊田3丁目15番地の12

代 表 者 飯島 利三

<功績の概要>

同会は、昭和47年の発足以来、毎月二回、自然観察会を実施し、市民等に対する緑化の普及啓発活動を行っている。

また、市の委託による市内の植生の書籍や動植物ガイドブックの発行に関わってきた。その他、緑の募金や市主催の苗木配布への協力、市主催の自然観察会への講師派遣、市環境審議委員への委員派遣等、市の環境行政に積極的に協力してきた。

このように、市内の自然環境に対する実践的な保全啓蒙活動に長期間大きく貢献している。

平成15年度には環境大臣地域保全功労者表彰も受賞している。

[団 体]

はなきこうせんづしまちくじっこういいんかい
あしがら花紀行千津島地区実行委員会

所在地 神奈川県南足柄市千津島65番地

代表者 会長 瀬戸 良雄

<功績の概要>

同地区では、平成2年から着手されたほ場整備事業を契機に次世代が誇りを持って引き継いでいける環境整備を行いたいという機運が醸成され、花木や花などの緑を活用した里づくりが開始され、以来10数年にわたって地域住民による緑の良好な環境の創造、維持、保全活動が展開されている。

この活動の結果、花木や花による新たな緑の景観の創造や都市住民への新たな癒しの場の提供につながり、10年来継続して行われている年3回のイベントは都市と農村の交流の場を提供し、水や緑といった自然の大切さを知らず知らずのうちに実感できる場の提供ともなっている。

また、同委員会は、植栽した樹木や花の管理、草刈りなど1年を通じて定期的に行い、緑化・美化の推進に貢献していることから、地元小中学校の総合学習やクラブ活動の一環として、毎年、維持管理やハナアオイまつり、スイフヨウまつりへ児童、生徒、約200名の積極的な参加を得ており、地域文化を継承するための試みとされている。

さらに同地区の活動が他地域へ波及し新しい活動組織が誕生した状況に対応し、ネットワークづくりによる地域間連携を推進し広域的な緑を活用した地域づくりへの発展に貢献している。

[団 体]

てんりゅうむら
天 龍 村

所 在 地 長野県下伊那郡天龍村平岡878番地

代 表 者 村長 大平 巖

<功績の概要>

同村は、早くから村民自らの手で郷土の美化、緑化運動に取り組む活動が起
こり、天竜川河畔等におけるもみじ植樹を始めとする景観に配慮した緑化活動を
進める「睦会」、里山や道路沿線に桜を植栽活動する「ニセンジ運営委員会」、
天龍村をより一層美しく、心から安らぎを得る花の里づくりを住民自らが実行する
「花の里づくりの会」等多くの村民団体による緑化推進運動が行われている。

同村の「天龍みどりの少年団」は、下伊那地域でも初期に育成され、早くから
後継者の育成、森林に対する意識の高揚に取り組んでいる。

また、同村は、昭和62年に県内で初めて被害が確認された松くい虫による松
林の被害対策として、樹幹注入材投与や樹種転換(広葉樹化)等に取り組むと
ともに、豊川水源基金を活用し、愛知県を流れる豊川の水源域内の造林を毎年
行うことにより、水資源の保全と緑化の推進に大きく寄与している。

平成14年には、「天龍農林業公社」を設立し、手入れのされていない山林や
農地について草刈りや伐採などを行い、美しい自然環境保全の推進に貢献して
いる。

[団 体]

ぎふけんりつかものうりんこうとうがっこう
岐阜県立加茂農林高等学校

所在地 岐阜県美濃加茂市本郷町3丁目3番の13号

代表者 校長 大野 良輔

<功績の概要>

同校では、昭和52年に、学校全体を対象にした「校内緑化計画」が立案され、校内各箇所に造園科生徒が坪庭を設計し制作するなど、同計画を推進してきた。

平成2年からは、岐阜県教育委員会研究指定「活力ある学校づくり推進事業」の取組の一つとして農業植物の教育力を生かした「グリーンキャンパス活動」を展開し、校内が緑豊かな環境となるよう整備を進めてきた。

平成9年から、継続性あるより確かな教育活動の場として、さらに幼・小・中学校等との学校間交流の場として、親しみやすい農場とすることを目指し、アニマルゾーン・フラワーゾーン等に農場をゾーン化し、農地や施設を改善してきた。

こうした活動により、地域住民が学校を散策するなど、今では多くの市民に親しまれる学校となっている。本館南側の宮浦池は、平成15年には、美濃加茂市により自然石を利用した噴水施設、護岸工、さらに周辺に芝や低木が植え付けられ、一段と素晴らしい場所となり、「宮浦池自然公園」と命名され、市民の大切な憩いの場になっている。造園科を中心に進めている緑化活動により、校内は緑豊かで動植物相に富んだ環境となり、生徒の学習の場として利用されている。

現在も造園科を中心に、創立100周年に向けた生徒の手による記念庭園整備と、環境制御機能の実験も兼ねた屋上庭園の計画整備が進められている。

[団 体]

めいわこうぎょうかぶしきがいしゃ
明和工業株式会社

所在地 岐阜県多治見市笠原町993番地
代表者 代表取締役社長 小島 洋一郎

<功績の概要>

同社は、昭和56年10月に設立し、昭和59年、当年度に成人する従業員によって、記念樹を植えたのをきっかけに、以来毎年度成人する従業員らによる植樹を継続するなど、全員参加による手づくりの緑化活動を行っている。

同社は三方を山で囲まれており、下草刈りや間伐を行うなど里山づくりを推進している。平成20年5月には、多治見市から山林(39,808㎡)を購入し、工場造成予定地以外の緑地山林(19,000㎡)を残し、更に里山の範囲を広げている。緑地等面積率は約47%と非常に高い。新たに購入した緑地山林には、カエデ、モミジ、クリ等の落葉樹を中心に全社員で植栽を行うほか、定期的な間伐により、山に光を入れ、植物が育つ環境にしている。また、工場の外周にフェンスを設けず、地域住民が散策できるようにするほか、従業員自ら、間伐材を用いて、橋や遊歩道、バーベキュー場のテーブル、椅子を作り、地域住民に開放する計画を推進している。その他、多治見市内のハナミズキ公園における樹林植栽への協力、地元ボランティア団体と合同での清掃活動、工場周辺の公道沿いの草刈清掃等を行い、地域社会に対する貢献度も高い。

[団 体]

か い づ か し
貝 塚 市

所 在 地 大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号

代 表 者 市長 藤原 龍男

<功績の概要>

同市においては、昭和55年に結成された「貝塚市まちづくり推進委員会」により、市民が主体となったまちづくり活動が進められていたが、平成2年からは、市のイメージアップと市民意識の高揚を目的に市の花「コスモス」をシンボルとし、「貝塚コスモスアイデンティティ(CI)運動」として各種の取組が展開され、市民によるまちづくり運動として大きな成果をあげてきた。

C・「コスモスアイデンティティ」のCはコスモスで、市の花とともに世界・宇宙という意味を持ち、市内府立高校、小中学校や商店街、老人会等との協働により、花いっぱい運動を進めている。

今後も、各種団体との協力を得ながら「コスモス定植会」、「コスモス苗配布会」、「コスモス種まき」、「コスモス園の写生」、「コスモス写真展」等を継続して実施するとともに、ボランティア活動団体に対して材料の購入や内容の相談等の支援を行い、市内を花でいっぱいにしていく運動を市民各層に拡げていく予定。また、この運動を通じて、地域の活性化や子どもから大人までのコミュニケーションを図っていく予定である。

[団 体]

うんぜんひやくねん もり かい
雲仙百年の森づくりの会

所在地 長崎県島原市平成町1-1 雲仙岳災害記念館内
代表者 代表 宮本 秀利

<功績の概要>

同会では、平成9年から、雲仙普賢岳の噴火により被害を受けた島原半島に自然林を蘇らせる運動を行っている。

植樹等の活動に必要な苗木は、普賢岳中腹に自生している樹木の種子を拾い、畑で苗木として育てる。それらを植栽苗として、島原市千本木地区の砂防指定地域において、地域住民、島原半島内高校生(9校の3年生)、地元企業によって、一連の作業を行ってきた。また、温暖化防止の二酸化炭素の吸収源としての森づくりや、地元企業等のボランティア活動に対して会で育てた苗木の無償提供など、県民あがての緑化・育樹活動に取り組んでいる。

種子の採取や選別、植え付けなどは、普賢岳中腹の地元住民にも呼びかけ、子供から大人まで広く参加し、農山村と都市部との交流を図っている。これら活動により、島原半島内の高校生や各種団体が植樹活動に参加していることから、広範囲にわたって森づくりの考えが浸透してきている。さらには、県外へ向けでも森林づくり活動を発信しており、ふるさとの森づくりに大きく貢献している。